

最新の医療機器導入

あす
竣工式 5月1日開院へ

掛川、袋井両市立病院を統合再編して設立する「中東遠総合医療センター」の竣工式（しゅんこう）が21日、掛川市菟浦ヶ池で行われる。式に先立って19日、建物内部が報道陣に公開された。

新病院は高度な医療システムを備え、磐田・伊立総合病院とともに、中東遠地域の基幹病院になる。がんの早期発見を可能にするPET/CT装置の導入は同地域で初めてで、最新鋭の血管造影撮影装置も配備した。心筋梗塞や脳卒中などに迅速な対応が可能で、手術センターには手術室を11室設けた。

建物には免震構造の8階建て。北向きの三角形の形状は、日当たり効率を均等化し、眺望を確保するために選ばれた。3階からは屋外に手術センターには手術室のりハビリ庭園に出ることができる。関係者は医療機器・備品の搬入、引っ越し準備、新体制での診療リハールなどを進めている。掛川市・袋井市



開院に向けて最終準備が進む中東遠総合医療センター
掛川市菟浦ヶ池



放射線治療の最新医療機器を確認する職員

新病院建設事務組合の中山富夫事務局長は「事前に課題を検討し、万全の状態での開院を迎えたい」と話している。